



©2005 石塚真一/小学館

第 146 号(令和元年 5 月 9 日)

信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ
特別隊員

島崎 三步 の「山岳通信」

この通信は長野県の山岳地域で発生した遭難事例をお伝えし、「安全登山」のための情報提供をしています。(詳細は以下のとおり)

長野県警山岳安全対策課からのワンポイントアドバイス

4 月 3 週は、3 件の遭難が発生しました。いずれも下山中の滑落によるものです。16 日に発生した西穂高岳における遭難はアイゼンを引っ掛けバランスを崩し、滑落したものです。現場状況写真のとおり、春のアルプス等の稜線はいまだ雪に覆われ冬山と何ら変わりはありません。これらの山域の登山には、危険箇所でのロープによる確保技術や、アイゼン、ピッケル等の装備を使用した確実な雪上技術など経験と知識に基づいた高度な登山技術が必要です。

平成 31 年中の山岳遭難発生状況(平成 31 年 1 月 1 日～4 月 21 日)

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	内)死傷者
平成 31 年	55	7		31	24	62	38
平成 30 年	37	8		21	20	49	29
前年同期比	+18	-1	±0	+10	+4	+13	+9
内)BC	+8	±0	±0	+3	+9	+12	+3

山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北アルプス	槍穂高	2	3.6%			2	2
	後立山	20	36.4%	2		11	25
	その他	7	12.7%			6	7
	計	29	52.7%	2	0	19	34
中央アルプス	7	12.7%	4		3		7
南アルプス		0.0%					0
八ヶ岳連峰	7	12.7%			5	2	7
その他の山岳	12	21.8%	1		4	9	14
計	55		7	0	31	24	62

態様別発生状況

区分	件数	件数 比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	28	50.9%	5		24		29
転倒	4	7.3%	1		3		4
病気	1	1.8%				1	1
道迷い	11	20.0%				17	17
落石		0.0%					0
雪崩	3	5.5%	1		2		3
落雷		0.0%					0
疲労凍死傷		0.0%					0
不明・他	8	14.5%			2	6	8
計	55		7	0	31	24	62

男女別・年齢別比率

区分	男性					(人)	女性					(人)	男女計		
	死者	不明	負傷	無事	計	比率	死者	不明	負傷	無事	計	比率	人数	比率	
19歳以下				1	1	20 37.0%				1	1	3 37.5%	2	23人 37.1%	
20代	2			7	9						0				9
30代			7	3	10				2		2				12
40代	2		9	5	16	24	1			2	3	4	19	28人	
50代			6	2	8	44.4%	1				1	50.0%	9	45.2%	
60代			4	2	6	10			1		1	1	7	11人	
70以上	1		2	1	4	18.5%					0	12.5%	4	17.7%	
計	5	0	28	21	54		2	0	3	3	8		62		
比率	87.1%						12.9%								

日付	場所	年齢	性別	態様	死傷別	概要
4月16日	北アルプス 西穂高岳	73	男	滑落	負傷	西穂独標から下山中、アイゼンを引っ掛け滑落、負傷
<p>16日、北アルプス西穂高岳において、男性73歳が滑落して負傷する山岳遭難が発生し、県警ヘリで救助しました。</p>						
4月17日	八ヶ岳連峰 赤岳	69	男	滑落	負傷	赤岳から下山中、岩場で滑落、負傷
<p>17日、八ヶ岳連峰赤岳において、男性69歳が滑落して負傷する山岳遭難が発生し、県警ヘリで救助しました。</p>						
4月21日	北アルプス 燕岳	57	男	滑落	負傷	合戦尾根を下山中、残雪でスリップし滑落、負傷
<p>21日、北アルプス燕岳において、男性57歳が滑落し負傷する山岳遭難が発生し、安曇野署山岳遭難救助隊が救助しました。</p>						

内容は長野県警察本部の発表時点のものです。

* 本通信に関するご質問・ご意見は「長野県観光部山岳高原観光課」mt-tourism@pref.nagano.lg.jpまで

＝発行：長野県山岳遭難防止対策協会＝